

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.79 2012年3月号

新渡戸稲造さんといえば、以前の 5,000 円札の肖像の方で、「武士道」という「世界的なベストセラー本」を書いた方としても有名です。もともとは教育者で国際連盟の事務局次長なども歴任された方ですが、今月はこの新渡戸稲造さんの残した言葉から、意志の強さより方向が肝心、という話をご紹介します。

ノーベル文学賞を受賞したフランスの哲学者ベルグソンはかつて「意志は人なり」と言ったそうです。新渡戸さんはこれを引用しつつ、意志は堅固でなければなりません、重要なのはその意志を向ける先で、意志の向け方を間違えると、成功者は失敗者となり、はなはだしいものは害毒を後世にまで残すことになると言います。そこで、意志を鍛える上で心得るべきこととして新渡戸さんはいくつかの事柄をあげています。

まず第一に、無私無欲ということだそうです。私たちは博学な人や親切な人に会って尊敬することがありますが、その人の中に「私」が現れてしまうと、その尊敬がたちどころに消えうせてしまうと言います。新渡戸さんが言うように、名誉と利益の念がない人ほど強い者はないということなのでしょう。

第二としてあげているのが、広くおおらかな度量を持つことだそうです。細かいことに我意を張ったり、いったん言い出したことに固執したりするのは意志を方向違いに用いるものだそうです。物事の軽重をよく判断して、譲るべきところは譲ると言うことが大切なのでしょう。

そして第三に、意志を貫くのに時間をかけるということだそうです。外柔内剛という言葉は意志の強さを表す言葉ですが、こういう人はたいていのことは我慢して人と争わないので、一見すると臆病に見えるそうですが、実際には世間の罵倒を受け流し、最後の勝利を帰しているため、実は強い意志が現れているそうです。

言葉にするのは簡単ですが、実際にそういう行動をとるのはどれも大変そうです。みなさんはふだんの生活でこうした心得を意識することはありますか？ 私はというと、意識することはあっても、なかなか実践はできません…。

